



窓から見る景色は霞み、通勤時に肌に当たる風の冷たさも和らいできました。自然の変化に春の訪れを感じずにはられません。

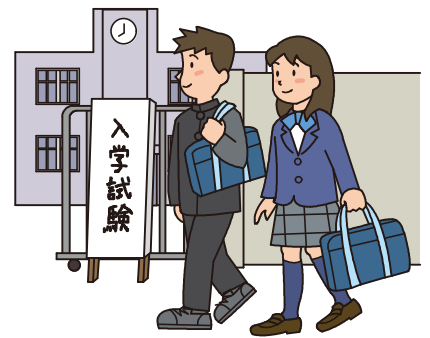
気持ちも弾む春が来た！

少し暖くなった朝、霞んだ街の空気を感じると、私は今でも大学入試の朝を思い出します。冬から春に移り変わろうとしていて冬と春が微妙に混じり合い、少しずつ春に近づいていく独特の空気感が、私の中では入試に向かう朝の風景とリンクし、春が来るなあといつも感じるのです。

先週の土曜日3月5日は啓蟄（けいちつ）でした。啓は「ひらく」、蟄は「土中で冬ごもりしている虫」の意味で、大地が暖まり冬眠していた虫が春の訪れを感じて穴から出てくる頃を表す24節季中のひとつです。天気予報を見ている、寒暖を繰り返しながら少しずつ暖かくなっていくのがわかりますね。

暖かくなると動き出すのは越冬している虫だけではなく、私たちの心もなんとなく前向きになれる気がします。日本では春が新学期の時期です。道ばたに花が咲き始め、私たちも新しい気持ちで何かを始めたくくなります。

さて、明日からは県立高校の入試が始まります。在校生のみなさんも入試の時にはドキドキしながら高校へやって来たことと思います。合格したらこんなことをやってみたい、あんなことにもチャレンジしてみたい、と夢を膨らませていたのではないのでしょうか。振り返ってみてどうですか。日々の成長はわずかずつですが、1年、2年過ぎてみるとずいぶん成長できたことに気づくことでしょう。次のステップに進むために、この期間を有効に活用して理解不足のところを補うなど4月に向けた準備をしておきましょう。



受検生のみなさんは、米工で専門力を高めたスペシャリストとして生き生きと学ぶ姿を、また部活に打ち込む姿をイメージしながら入試に全力を尽くしてください。自分の未来のイメージを持つことは

自分の進むべき方向を示してくれます。また、頑張ろうというエネルギーになります。先輩たちと共に工業のスペシャリストとして成長し、米子のものづくり文化を支えていきましょう。受検生のみなさんの健闘を祈ります。

校長 松川明義



今週は入試業務のため、米工MAKERSはお休みします。次回は来週月曜日です。



正面玄関入口、図書室の外側に何やら見慣れぬプレートが設置されたのに気づきましたか？これは避難所であることを示したプレートです。

あなたは本当に避難できますか？



20年ほど前に「鳥取県西部地震」という鳥取県西部を震源とした地震がありました。当時、私は大阪で研修を受けていたのですが、大阪に居た私でさえ、その揺れははっきりとわかる大きな地震でした。家族に当時のことを聞いてみてください。本当に災害はいつ来るのかわからないのです。

テレビのニュースを見ると、災害が発生しそうなとき、あるいは発生したときには、公民館や学校が避難場所となっている光景をよく目にします。そのため、全ての公民館や学校は避難場所だと思っている人も多いのではないのでしょうか。

さて、私たちも年に2回避難訓練を学校で実施していますね。最近では啓成小学校が工事のため、小学校と合同で高校へ避難する訓練を行っています。また避難訓練か・・・、なんて思う人はいませんよね。工業高校の生徒には避難訓練を行う意義を日常の学習から理解してもらっているはずですが、例えば、実習等で新しい工具を使用したり、装置を初めて扱うときには、手順を確認したり、操作のコツを意識しながら扱いますが、慣れてくると意識しなくても手際よく、手早く扱えるようになりますね。

避難訓練も同じことで、最初は何に気をつけてどう行動すれば良いのかを考えながら動いていると、避難までの時間がかかったり、間違った行動をしてしまうことがあります。しかし、何度か意識して繰り返していると短時間で適切な避難が可能となります。いつ起きるかわからない災害や事故に直面したとき、少しでも被害を少なくするために短時間で適切な行動を実現するには、やはり日頃からの意識した訓練が大切です。

いつもの避難訓練は天気の良いときに外へ避難する、雨であれば体育館へ避難するという訓練が多いのですが、実際には雨の中、外へ避難する必要がある場合や教室や廊下の窓ガラスが散乱した状態での避難もあり得ます。だからといってそのような状態で訓練をするのは難しいですね。そんなときには机上での避難訓練をしましょう。雨の日に、もし避難することになったらどうしなければいけないのでしょうか？自分たちの服装や、雨の時に必要なものなど、色々書き出してみるのも避難訓練の一つになります。

さて、もしも今、あなたが避難することになったら、どのように、又どこへ逃げたら良いか、その行動をイメージできますか？



米工 MAKERS

米工通信 第108号
令和4年3月16日
鳥取県立米子工業高等学校
生徒部 三村 雅人

校則の見直しが行われました！

来年度、入学する新1年生は「GIGAスクール構想」に伴い、一人一台パソコンを活用した授業が展開されます。その為、今の本校の校則を改定する必要があると、生徒会長の上田くん（M2）、副会長の片岡くん（M2）、杉原（M2）くんを中心とした校則検討会が行われました。

①2月初旬に生徒指導部長である田中先生（理科）より、現行のルールについて、そして校則の必要性についてのお話を伺いました。



②その後、1,2年生を対象とした学校の校則について「Google Forms」を活用したアンケートを実施しました。



③全校生徒に回答してもらったアンケート結果を集計し、「意見要望書」を作成しました。



④2月中旬に生徒指導部の田中先生に全校生徒の考えをまとめた「意見要望書」を提出しました。



■生徒の声

① 校内ICT 端末（携帯・スマートフォン・クロームブック）の使用について

ICT 端末の使用ルールについて「今のままで良い」が 17.5%に対し、「改定して欲しい」という意見が 43%あり、「今のままで良い」の約 2.5 倍ありました。「改定して欲しい」を選んだ人を対象に、具体的などのようなルールが良いかを調査したところ、「学校敷地内は使用禁止で原則電源を切る。但し、学校から出された課題や授業に関係がある調べ学習の場合に限り、昼休憩・放課後の使用を認める。」の現行に類似した選択肢が、全体の5割以上で一番投票数が多い結果となりました。その理由として「ICT 端末（Classroom や Google Forms など）を活用した授業で出題されている課題や回答を見たいが、校内で端末が使用禁止のため利用ができない」、「課題を昼休憩などの空き時間に終わらせたいができない」、「授業でわからなかったことを調べられない」等がありました。



② 頭髪について

頭髪については「どちらでも良い」という回答が 54.6%でした。次に「改定して欲しい」という意見があり、具体的に「ツーブロック許可」や「毎回基準が違い、引っかかる時と引っかからない時がある」という基準が不明確という意見がありました。



③ 校則は必要だと思いますか？

全校生徒の約 98%が「校則は必要だと思う」と回答しました。その理由として、「社会に出るともっと厳しいルールがある。学生のうちにある程度のマナーは身に付けておきたい。法律があるように学校のルールは守りたい。生徒や先生が安全かつ安心して学校生活を送るため。」など自分自身を守るために最低限のルールは必要との考えや、将来を意識した回答が多くみられました。



■まとめ

生徒の声をまとめた意見要望書は、その後生徒指導部と連携した意見を職員会議で議題にあげ、様々な条件を入れながら可決されました。具体的にはICT端末に関しては「原則使用不可」でしたが、「一部の条件を含めた校内での使用が許可」されるようになります。また、ツーブロック等を含めた頭髪に関しては「極端な段差のある髪型については、慎まなければならない。学習活動や安全衛生活動の妨げとならない長さになるように、適切な措置を講じること。」というように明記される予定です。

今まで学校の校則は教員側が決めてきましたが、今回は生徒会長や副生徒会長を筆頭に全校生徒で意見を出し合い、米工がより良い学校になるためにはどうすれば良いかを様々な角度から全校生徒と考えることができました。そしてその考えを教員が受け取り、校則を改定することができました。

教員が校則で制限をかけることは簡単ですが、生徒にとってそれが良い学びに繋がるのかと考えた時に、自ら考えて動く判断力や行動力が身に付かない可能性があるという答えに辿り着きました。生徒たちは高校を卒業すると社会に出ていきます。そこでは自分の考えや行動に責任を持って生きて行かなければなりません。スマホ1つにしても正しく使えばとても便利ですが、使い方を間違えれば人を傷付けてしまう道具になる可能性があります。その時に「何が正しくて、何が間違いであるのか」その判断ができるように、今後は厳しく自分を律し、正しく使うための情報モラルや、工業高校生としてのエチケット・マナーを学校の授業や友達とのコミュニティの中で養い、人間力を向上させて欲しいと思います。今回の経験から「声をあげることの大切さ、皆で議論し合うことで見えてくる答え」を考える良い機会になったのでは無いかと思います。今後も生徒と教員が共に連携を図りながら、より良い学校づくりを目指していきたいです。



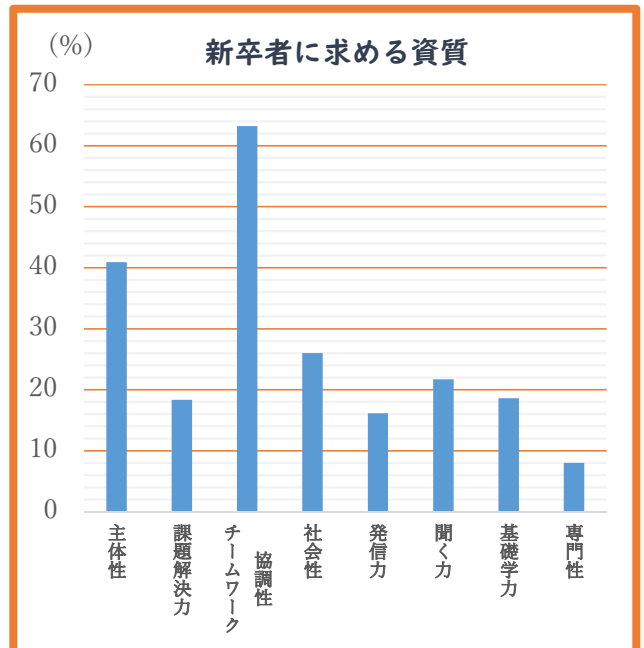
合格者のみなさんへ

合格おめでとうございます。4月から始まる米工生活に期待と不安で胸がいっぱいではないでしょうか。そんな不安を少しでも和らげるため、『米工生が部活動を頑張っている理由』について説明していきます。

社会が求める『資質』とは

米工の進路状況ですが、学年の約7割が就職、約3割が進学となっています。多くの生徒は入学して3年後には社会に巣立っていきます。この3年間のうちに『社会人としての資質』を習得しなければなりません。

右の表は2020年に鳥取県が発表した県内企業に対しておこなったアンケート結果を抜粋したものです。それを見ると企業は新卒者に対して基礎学力・専門性をそれほど重視していません。もちろん、学校推薦で受験するので一定の基礎学力・専門性のある生徒が受験している前提ではありますが、それよりもチームワーク、協調性・主体性・社会性といった試験や履歴書だけでは見えない力を求めていることがわかります。これは2018年に経済産業省が出した『新社会人基礎力』（基礎学力や専門知識を最大限に発揮するために必要不可欠な能力）とも共通しています。【下記参照】



- (1) 前に踏み出す力 (主体性・働きかける力・実行力)
- (2) 考え抜く力 (課題発見力・計画力・創造力)
- (3) チームで働く力 (発信力・傾聴力・柔軟性・規律性・状況把握力・ストレスコントロール力)

つまり企業は、どんなに優秀な基礎学力や高度な専門知識・資格があったとしてもそれを**発揮する能力**が備わっていない人物は採用したくないと言っているのです。

部活動を通して『心』を育てよう

企業の人事担当者が『3年間部活動をやり遂げた生徒を受験させてください』とよく言われます。これは部活動を通して、さまざまな問題に直面し、悩み、解決する（小さな挫折を繰り返す）ことによって『新社会人基礎力』を身につけていると判断するからです。部活動とは小さな社会（組織）です。年齢差は少ないですが上下関係があり、横の繋がりもあります。そのような環境下でしか培うことができない能力を企業は求めているのです。決して競技力の向上だけが目的ではありません。最も重要なことは3年間、部活動を継続したかどうかです。米工生が部活動を頑張っている理由はそこにあります。

右の詩は私が中学校時代に校長先生からよく言われていた言葉です。どんなにきれいな花が咲いていても根が腐っていればすぐに枯れてしまう。大事なことは地中深く丈夫な根（風・雨・雪にも耐える）を生やすことだ。人間も同じで外見だけ装っていても仕方がない。**見えない根=『心』**こそ大切に育てていかなければならない。

合格者のみなさん、米工生の約9割が部活動に日々励んでいます。社会人としての基礎を先輩たちと一緒に築いてみませんか。やり遂げたあとには必ずチャレンジして良かったと思えるはずです。

みなさんの入部を楽しみに待っています





明日は終業式です。一年前に比べると、知識も心も成長したことを生徒の皆さんは実感していると思います。分散登校や臨時休業など新型コロナウイルス感染症へ対応しながらも、よく頑張りました。ところで、みなさんはこれまでに学んできたことをどのように活かそうと考えていますか？

学びを活かすのはあなた自身！

「こんな勉強をして役に立つのか？」という質問をよく聞きます。確かに私も学んだことを全て覚えているわけでもなく、同じ疑問を持った時期もあります。しかし、振り返ってみると、学んだことが役に立たなかったのではなく、学んだことを活用していなかっただけだと思います。

先日、東北で地震がありました。震災経験を活かして復興への取り組みを進めてきていても、新幹線の脱線、道路の陥没、停電、断水など現地では様々な問題が発生しています。工業で学んだ知識と技術はこのようなときにも大いに活かすことができます。私たちは地震や台風など自然災害が多い場所に生活していますから、災害の予防と復旧には欠くことのできない学びです。

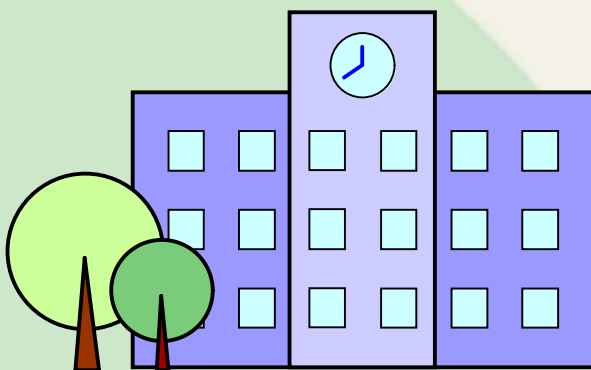
学問的な学びはオンラインでもできる時代となりましたが、コミュニケーション能力を高めたり、他者を思いやり、自分の心を強くすることは集団生活の中で直接他者と関わりながら育んでいくものです。みなさんにとっては学校生活がその貴重な場となっています。

学習面も心のあり方も、無意識のまましているとなかなか身につけません。意識して振り返り、検証してやる必要があります。学習面は定期考査や資格試験などに向けて振り返る機会がありますが、心のあり方はキャリア・パスポートなどで振り返ることがあるにしても自ら意識して振り返ることが必要です。心のあり方を振り返ると、不適切な係わりや思い込みによる係わりで他者との関係が気まづくなり、つらくなるかもしれません。しかし、そんな失敗を糧にしながら心は成長していくのです。失敗は悪いことではありません。そこから学ぶことができればその失敗による影響を修復することもできるでしょう。何事も失敗の数だけ成長できるのです。

この一年で学んだ知識・技術、そして心の変化を振り返り、今後の生活に活かしてください。

春休みにはリフレッシュして、来年度も学校生活を楽しみましょう！

校長 松川明義





米工 MAKERS

米工通信 第111号

令和4年3月28日

鳥取県立米子工業高等学校

山陰自動車道を走っていると、黄色く輝く花畑が目に入りました。その輝きは力強く、命が芽吹こうとする春を感じる一瞬でした。

逢うは別れのはじめ



春は新学期の時期、出会いの時期です。しかし、同時に別れの時期でもあります。3月1日には3年生を送り出したばかりですが、教職員も次年度に向けて新しい職場へと異動していきます。

今回異動するどの職員も、米工への思い、愛着を離任式で生徒に話してくれました。今回、離任される先生方とその主な活躍などを紹介します。

足立誠司教頭 情報電子科 境港総合技術高等学校へ

👉 山岳部で高体連登山専門委員長 👉 ものづくり同好会顧問として全国大会8回出場

桑名伸一郎先生 保健体育 米子西高等学校へ

👉 バレーボール部監督として全国大会1回出場 👉 普通自動二輪の免許を取得しライダーデビュー

山中茂樹先生 英語 米子白鳳高等学校へ

👉 硬式野球部顧問 👉 ALT担当 👉 スーパーポジティブ思考を実践

川口友香先生 環境エネルギー科 鳥取工業高等学校へ

👉 柔道部顧問 👉 ご自身も現役選手です

湯浅由美子事務長 事務室 米子西高等学校へ

👉 学校全般の事務を統括 👉 教職員、生徒が安心して過ごせるのも、事務長さんのおかげです

蓼本美砂事務補助 事務室 米子南高等学校へ

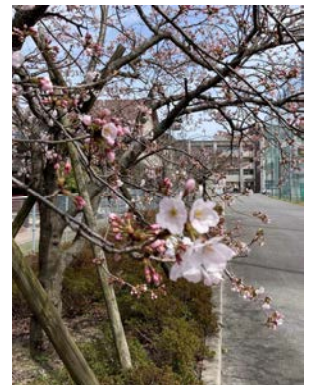
👉 事務室での窓口業務を担当され、生徒には一番身近な事務室職員です

なお、次の先生方は今回退職されますが、引き続き本校で勤務されます。

足立正夫先生 建設科

松田智之先生 情報電子科

校内の桜も咲き始めました。みなさんも新しい環境で心機一転ご活躍ください。



さて、これで令和3年度の米工MAKERSを終了させていただきます。

1年間ご覧いただき、ありがとうございました。

米工を支えてくださる多くの皆様に感謝申し上げます。

校長 松川明義

春休みのため、米工MAKERSはお休みします。次年度もよろしくお祈いします。